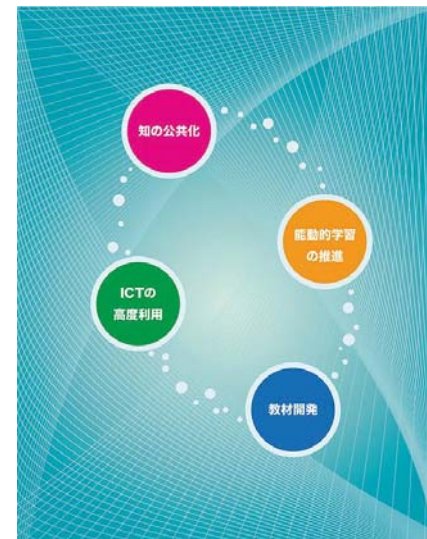


九州大学附属図書館付設教材開発センター 活動内容紹介

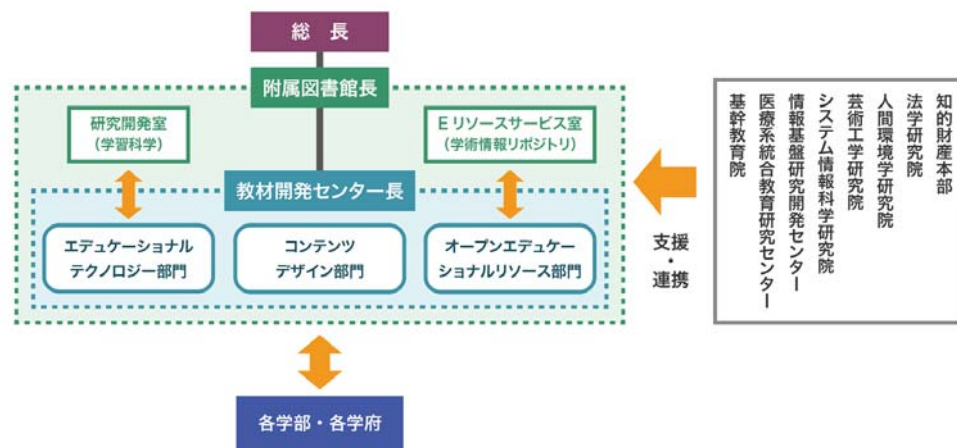
～ 電子教材開発と知の公共化に関する取組について ～

教材開発センターの概要

- 電子教材開発
- 知の公共化
- ICTの高度利用
- 能動的学習の推進



組織図・連携図

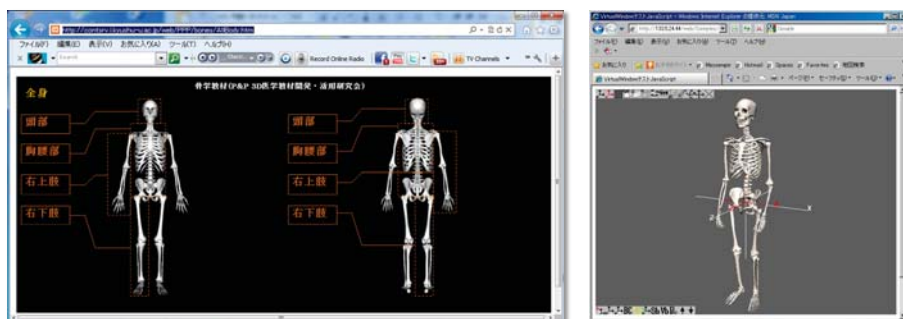


組織構成員

役職	人数
センター長	1名
専任教員	1名
兼任教員	5名
テクニカルスタッフ	7名
専門員	1名
事務補佐員	1名

教材開発(骨学学習教材)

協力: 九州大学医学研究院



骨学学習用電子教材の作成

- 3DCG(学習理解度や学習意欲の向上)
- モバイル性(いつでもどこでも気軽に学習できる環境)

5

Innovation Center For Educational Resource

教材開発(多言語学習教材)

協力: 九州大学言語文化研究院



言語学習用電子教材の作成

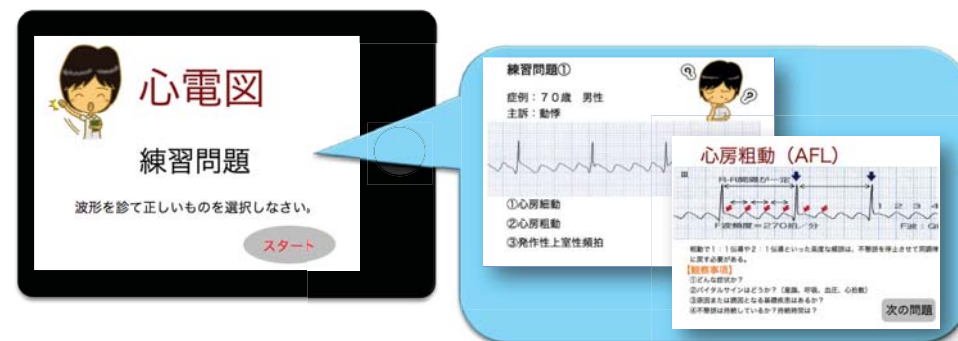
- 多言語対応(ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語、エスペラント語)

7

Innovation Center For Educational Resource

教材開発(看護実践力ブロッサム開花プロジェクト)

協力: 九州大学病院 看護キャリアセンター



看護用電子教材の作成

- インタラクティブ性(学習理解度や学習意欲の向上)
- モバイル性(いつでもどこでも気軽に学習できる環境)

6

Innovation Center For Educational Resource

教材開発(iTunes U Courses「九州大学百年の宝物」)

協力: 九州大学附属図書館



iTunes U Courses を利用

iBooks Authorを利用したインタラクティブな教材開発の例

8

Innovation Center For Educational Resource

授業動画の撮影

1.撮影依頼

- ICERから各部局へ依頼通知を出す(講義、最終講義)
- 主催者や先生から撮影依頼
- 打合せ

2.撮影

- 講義、講演会等

3.編集

4.アップロード



講義を撮影



PCで動画を編集

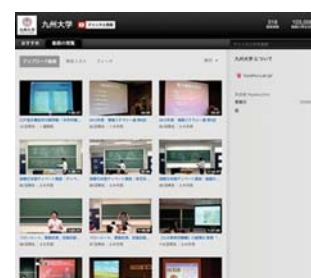
授業動画の撮影

5.動画確認

- 講演者が編集動画を確認、公開の了承を得る
- 再編集の場合もある

6.公開(一般公開or限定公開)

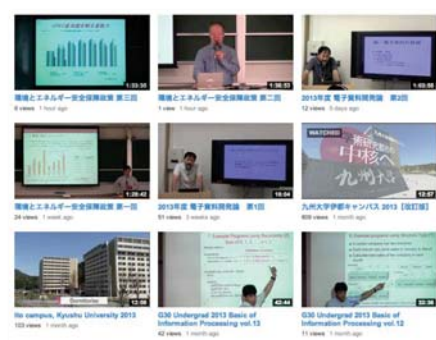
- 公開チャンネル・・・YouTube, iTunesU, OCV



九州大学WebページからYouTube、iTunesUをリンク

九州大学YouTubeのチャンネルで公開

YouTubeの利用



各種動画の配信

- 講義、最終講義動画、講習会、隔週イベント動画の配信

iTunes Uの利用

<http://itunes.icer.kyushu-u.ac.jp/>



九州大学で開講される授業や講演会、イベント等の動画や、授業資料を公開。

Apple社より提供されている教育・学習向けのコンテンツ配信サービスiTunes Uの九州大学のサイト上に、講義動画や資料といったコンテンツをアップロードし、公開。

コンテンツはポッドキャストの形式で配信され、無料アプリケーションのiTunesをインストールすることで閲覧可能。



iPadのiTunes U



OCW(Open Course Ware)



Open Course Ware

— 授業動画・スライド資料等の公開

13

Innovation Center For Educational Resource

電子教材の著作権処理

著作物の引用・複製は、出所を明示して著作権者の利益を害さない範囲であれば『授業内』(非公開)では可能

⇔web上で教材を公開し、誰もが閲覧・ダウンロードできる場合は、著作権者の許諾が必要
大学の講義用に制作した資料をそのままweb公開するのは危険

15

Innovation Center For Educational Resource

電子教材著作権講習会(平成23年度～)

電子・オンライン教材作成におけるジレンマの克服

学術情報

- 最新で正確な

伝える

- わかり易く
- 記憶に残るように

その他の配慮

- 時間、労力、経費
- 社会貢献、倫理性

著作権法および出版社等著作権者が公表しているガイドライン等への配慮



ハンドブック

「他人の著作物を含む電子・オンライン教材の作成と利用に関するQ&A」



14

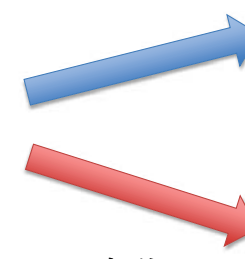
Innovation Center For Educational Resource

電子教材の著作権処理

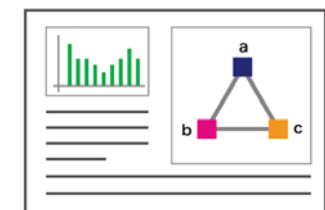
引用元を明らかにし、著作権者に許諾を得て制作



講義用に制作した資料



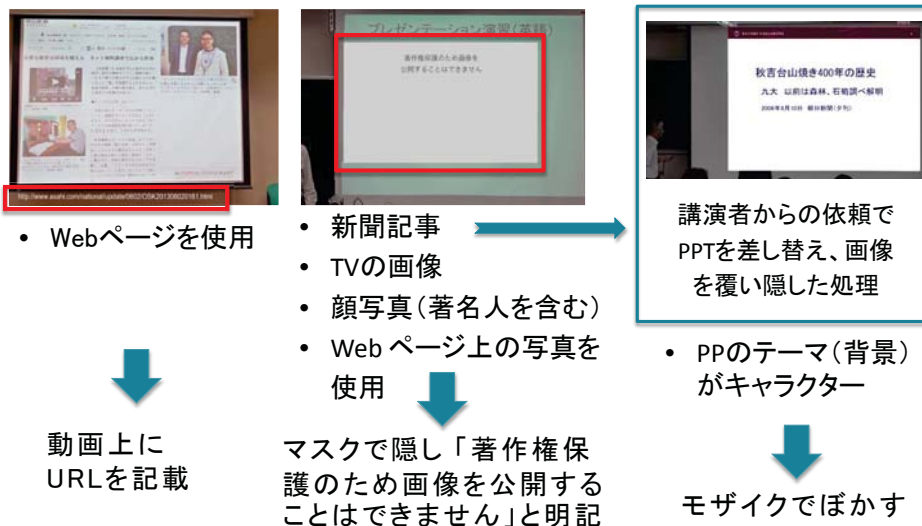
自作



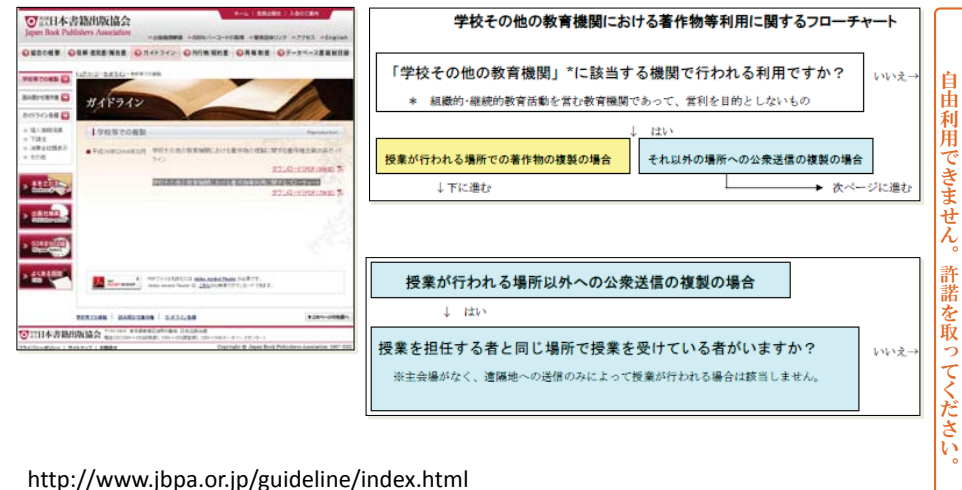
16

Innovation Center For Educational Resource

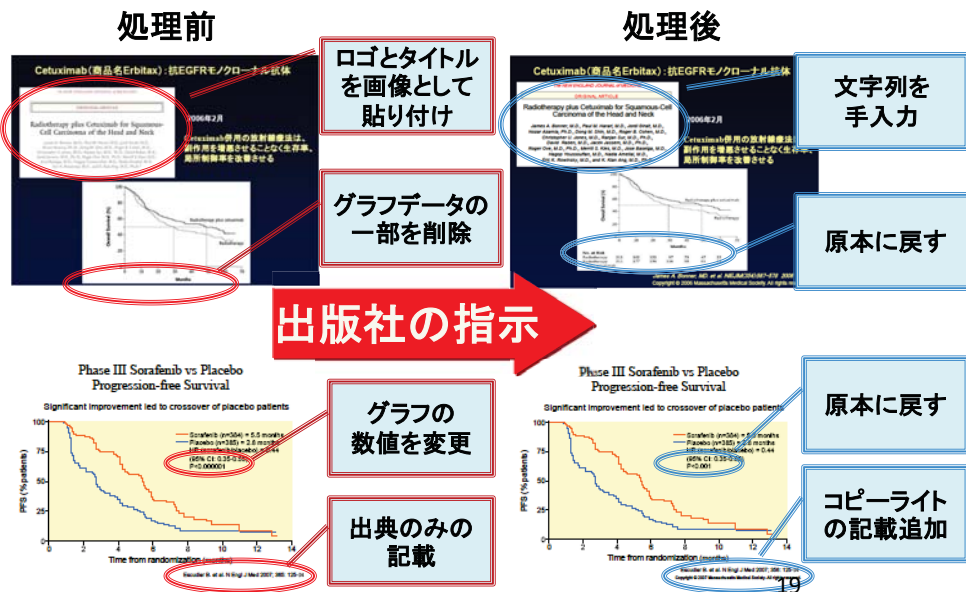
教材用動画の著作権処理



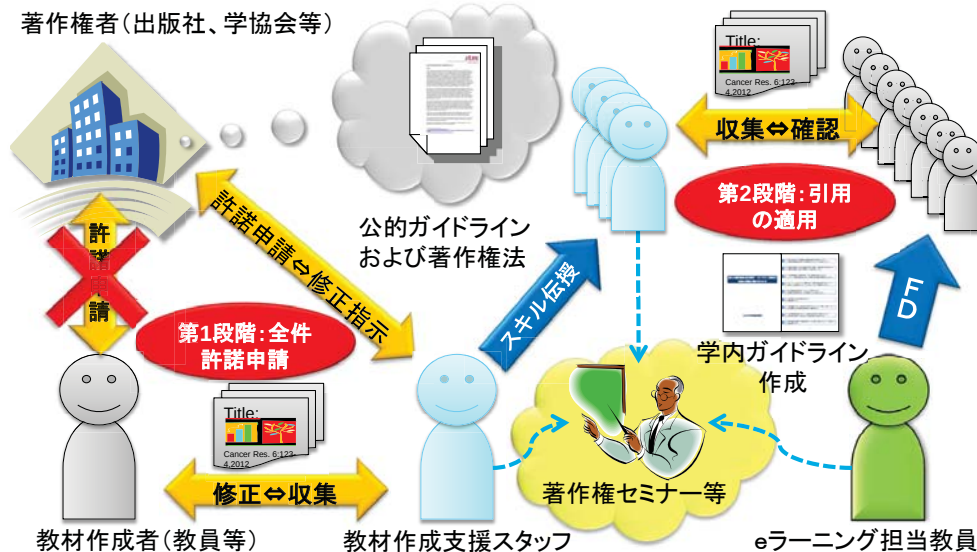
日本書籍出版協会「学校その他の教育機関における著作物等利用に関するフローチャート」



他人の著作物を含む教材を利用可能とするための著作権処理: 使用許諾申請と回答の事例



大学内で実施可能な対策の段階的实施



「引用」の適用に際して、著作権者が公開しているガイドライン等における問題点

大きな問題は以下の三点

STM「Permissions Guidelines」

- 雑誌記事や書籍の章からの図表は**3つまで**利用できる

日本医書出版協会「引用と転載について」

- 出所(出典)の明示について
 <雑誌の場合> 著者名, **題名**, 雑誌名, 巻, 号, 頁, 発行年.
- 原則として、**原形を保持**して掲載すること

21

eラーニング教材に含まれる他人の著作物に関する方策
 (平成21年8月文科省上申書抜粋)

1. 法改正を働きかける
2. 教材作成者側の公的なガイドラインを作成
3. 法的な争いが起きて判例ができるのを待つ
4. 専門的な知識や技能を有する人材を養成
5. 教職員の啓蒙(FD, SD)
6. 著作権処理の方針について多施設が協議

出版社等の著作権団体のガイドラインに照らすと...

□ 九大の90分講義教材

	1講義あたりの数	平均±標準偏差
スライド	27~173枚	87.5±34.9
他人の著作物	0~73件	22.8±16.2

□ 6大学の25教材:スライド2018枚

- 他人の著作物を含む: **820枚(41%)**
- 「出所の記載方法が不十分」**658枚(上記の80%)**
- 引用を適用しようとしても...
 - 「1論文から3つまで」に抵触: 1/4~1/3
 - 診療ガイドライン等の画像を大量に利用
 - 「出所に論文題名なし」や「改変」が多い



22

Web学習システムユーザーサポート

導入学習支援システム(LMS): Blackboard Learn R9 SP12

- お知らせの掲載
- マニュアルの作成・掲載
- 教職員からの問い合わせに対するサポート
 - 導入に関する支援
 - ツールの使い方の説明
- 講習会を開催
 - 新機能紹介
 - 活用事例紹介
 - 個別の事案におけるサポート
 - 英語でのワークショップも実施



学生のプロジェクト支援(平成23年度～)

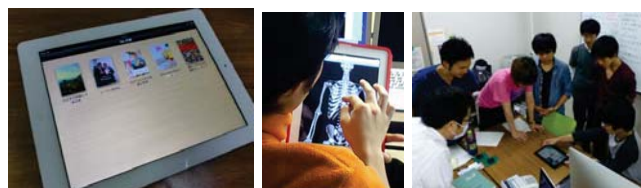
教材開発センターでは、学生主体の教材開発に関するプロジェクトを積極的に支援しています

平成23～24年度 iPadプロジェクト

大学生のiPad活用法について書いた書籍を集め、アプリを開発

平成25年度 3次元ハンズオン組織モデル開発

高精度3Dプリンタを用いて3次元ハンズオン組織モデル作成し、医学教材として活用する



ニュースレターの発行

「ICER Newsletter – 九州大学附属図書館付設教材開発センターだより-」として2013年3月創刊。

以降、隔月で発行。最新号は2013年12月発行のNo.6

バックナンバーはICERウェブサイト(<http://icer.kyushu-u.ac.jp/pr>)で公開中。



ウェブサイト

<http://icer.kyushu-u.ac.jp/>

教材開発センターのオフィシャルウェブサイト



- センターの概要や最新情報を発信
- 作成した教材の公開
- 講義動画の公開(キーワードから検索可能)
- 各種講習会開催のお知らせ、申し込み
- センター主催講演会のお知らせ、申し込み
- センターからのお知らせ
- お問い合わせフォーム

教材開発センター活動内容まとめ

1. 電子教材開発
 - インタラクティブ性、モバイル性、3DCG等を考慮に入れた教材開発
2. 知の公共化
 - 授業動画撮影
 - YouTube, OCW, iTunes U
3. 電子著作権の管理
 - 講習会
 - 電子教材著作権処理
4. 教育環境支援
 - ウェブ学習システムユーザーサポート
5. その他
 - 学生のプロジェクト支援
 - ニュースレターの発行
 - ウェブサイト

